

1年	科目	古典	講義	前期または後期	担当	渡邊 忠昭
全学科共通		Classical Japanese	必修	1履修単位		WATANABE tadaaki
授業の概要						
<p>現代日本文化の源流としての基本的な古典の作品に親しみ、その底に流れている精神、人間性の「不易」なもの、時代とともに現象として変化してみえる「流行」を見極める力を養う。</p> <p>さらに、そこで培われた理解力、表現力、洞察力(いわゆる「読み・書き・そろばん」力)をもって、文化面での国際社会における情報収集能力、情報発信能力の基礎を習得する。</p>						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
		1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
		2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
		3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
	○	4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
		5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)	実践指針 (プログラム対象科目のみ)			実践指針のレベル (プログラム対象科目のみ)		
授業目標						
古文・漢文の読解を通じて日本文化受容への理解を深め、歴史を踏まえた文化発信力の基礎を身に付ける。						
授業計画						
第1回	古文入門1	古文の言葉と仮名遣い				
第2回	古文入門2	随筆「徒然草」				
第3回	物語1-1	作り物語「竹取物語」				
第4回	物語1-2	作り物語「竹取物語」				
第5回	物語2	歌物語「伊勢物語」				
第6回	和歌1	和歌「記紀歌謡」・「万葉集」				
第7回	和歌2	和歌「古今和歌集」・「新古今和歌集」				
第8回	中間試験	物語1～和歌2理解度チェック				
第9回	日記	日記文学「土佐日記」				
第10回	物語3	軍記物語「平家物語」				
第11回	漢文入門	訓読法				
第12回	詩	唐詩				
第13回	史話	「十八史略」				
第14回	思想	諸子百家				
	期末試験					
第15回	まとめ	シラバスをもとに学習・教育・授業目標の確認と授業評価。まとめ				
評価方法 と基準	評価は2回の定期試験の平均を70%、受講態度等を30%の重みとする。総合評価が60点以上の場合に合格となる。					
教科書等	「国語総合 古典編」東京書籍版、「新訂最新国語便覧」浜島書店版、プリント、古語辞典					
備考	<p>授業理解度、進度によって教材を変更することもある。2組・5組は前期に開講。1組・3組・4組は後期に開講。</p> <p>1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。</p> <p>2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。</p>					